

社会「郷土の発展に尽くす～青山士と荒川」

小学校・第4学年

【本単元の概要】

青山士の働きで開削された荒川放水路によって洪水の被害が減少し、地域社会の人々の生活が向上してきたことを調べることを通して、先人の郷土の発展に尽くした姿の意味を考える。また、青山士の業績である施設等が現在も地域に存在していることを確認し、水害を心配せずに安心・安全な生活へとつながっていることを考え、表現できるようにする。

1 単元の目標

洪水に悩まされた人々の生活、荒川放水路建設に尽くした青山士らの工夫や努力について調べ、郷土の生活の変化やその発展に尽くした人々の思いや願いについて考えるようにする。

2 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に尽くした先人の働きに関心をもち、意欲的に調べている。 地域の人々の生活の歴史的背景や地域社会の発展を願ってきた人々の生き方に関心をもち、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に尽くした先人の働きについて学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 地域の人々の願いや生活の向上と、先人の働きやその苦心とを関連付けて考え適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に尽くした先人の働きについて地図や年表、映像資料、文章資料等から必要な情報を読み取ったりまとめたりしている。 調べたことをワークシートや作品、手紙にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。 地域の人々の生活が変化し、向上してきたのは、先人の願い、努力や働き、苦心によるものであることを理解している。

3 単元の指導計画（全 11 時間）

時	学習活動 (協働的な学習活動)	言語活動のポイント
第 1 時	○明治時代に起きた洪水の被害について聞き、当時の地域の人々の生活に関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いでは、児童が具体的な事実を多く記述している場合には、「つまり」、「まとめると」、具体性の少ない記述をしている場合には、「例えば」という言葉を使って考え、表現するよう指導する。 話し合いの目的に応じて、グループの編成人数を変える。 ペアで話し合う … 自分の意見を話しやすい環境で話す。 グループで話し合う … 複数の意見を聞き、自分の考えを深める。課題の答えとしてよりよいものを考える。 全体の場で発言する … 自分の意見をクラス全体に発表する。
第 2 時	○ある時期から洪水の被害がなくなったことから、学習問題を見いだす。 ・予想し話し合う活動	
第 3 時	○学習問題解決のための学習計画を立てる。	
協働的な学習活動のポイント		
第 4 時 ～ 第 8 時	○学習問題を解決するためにテーマごとに分かれて調べる。 ・グループで調べる活動	<p>他者と話し合う必然性のある課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の問題意識から学習問題を設定して、調べる際には学習問題に立ち返るようにする。主な工事に携わった人々について幾つかの立場に分かれてグループで調べ、それを基に話し合いを設定する。教師は話し合ったことを発表する手法を先に伝え見通しをもたせる。 青山士や、荒川放水路に関わる年表を作成することで、調べていることがどの時期に行われたことか考えられるようにする。
第 9 時 本時	○荒川放水路に関わった人の姿から、放水路の価値を考える。 ・調べたことを基に発表して考える活動	<p>コミュニケーションを深めるための個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べた内容をワークシートで確認し、次の時間の調べ学習に関わるアドバイスを一人一人に伝える。振り返りで書いたものを基に形成的な評価を行い、次時の話し合いに生かす。
第 10 ・11 時	○学習問題に対する自分の考えをまとめ、学習に関わった人に、分かったことや考えたことを伝える手紙を書く。	<p>互いの考えを知るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入の資料提示の段階では電子黒板を活用し、一部分を拡大したり隠したりする操作を行うことで、児童の多様な考えを引き出せるようにする。 <p>自己評価を生かした指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働的な学習活動における児童の能力の達成度を自己評価させると同時に教師も同じ項目で評価を行う。自己評価は振り返りと一体化させ、変容について継続して評価できるようにする。 この自己評価を行うことにより、話し合いの重要性を認識させる。

4 本時の学習（第9時）

(1) 特に重点を置いた言語活動のポイント

- ・荒川放水路建設工事に関わった人について、それぞれ別々の立場について調べたことを基に考えを紹介し合い、互いの考えに意見を言う。
- ・自分の考えを記述する際に、具体的な事実を多く記述している場合には「つまり」、「まとめると」、具体性に乏しい記述をしている場合には、「例えば」という言葉を使って考え表現するよう指導する。

(2) 特に重点を置いた協働的な学習活動のポイント

- **他者と話し合う必然性のある課題の設定**
ロールプレイによる発表をすることで、人の思いや願いについて話し合う必然性をもたせる。
- **互いの考えを知るための工夫**
これまでの学習を振り返り、意欲的に考えられるように、導入の資料提示で電子黒板を活用する。課題に応じて一部分を拡大したり、部分的に見せたりする操作を行う。

(3) ねらい

青山士、水害に悩まされた人々、工事に参加した作業員、立ち退いた人々等、様々な立場から荒川放水路の完成を祝う場面の気持ちを話し合うことで、荒川放水路の価値について考える。

(4) 本時の展開

学習過程	学習活動	指導のポイント
課題をつかむ	1 荒川放水路にはどのような人々が関わっていたかについて発表する。	◆荒川放水路に関わった人の思いに着目させるため、ICTを活用して学習内容を振り返らせる。
自分の考えをもつ	荒川放水路が完成したときの人々の思いや願いについて考えよう	
協働的な学習活動グループ全体	2 課題に対する自分の考えと、その理由を書く。 ○水害に悩まされた人々等の立場を想定し、自分が考えた理由を書く。	◆理由が思い付かない児童に対しては、自分が調べたことを振り返らせ、そこから探すように指示する。 ◆違う立場から考えるよう個別指導する。
	3 考えた理由について話し合う。 ○これまで、自分で調べた資料を活用しながら、話し合う。 ○話し合ったことをロールプレイで発表する。	◆個人での調べ学習の結果、理由がはっきりしなかった児童は、他者からヒントを得られるようにする。
自分の考えを見直す	4 話し合いをした上でもう一度課題について意見を書く。	◆他者との話し合いの後に、碑文を参考にしてもう一度自分の書いたものを読ませる。
自己の変容などを振り返る	5 話し合いについて自己評価を行い、振り返る。	◆相手を意識させるため、理由について書き加えるときには、誰のどの考えで変わったのか書かせる。

検証の成果と課題

◆成果◆

- ・「青山士はどのようにして荒川放水路を作ったのか」という問いに対し、一人一人の児童の興味・関心から調べ、グループで話し合い、全体で意見交換したことで、関わった人の様々な立場に触れて考えることができた。別の立場に触れて考えることで、これまでの自分の考え方に広がりが見られた。

【児童の反応】

青山さんはずっと立ち退きをした人、水害に悩まされた人、働いた人のことを忘れなかったのがすごいなあと思いました。立ち退きをした人の苦しさがあったり、働いた人が死んでしまったりしたこともありました。岩淵水門はパナマ運河で働いていたことを生かして、苦勞して作ったことを知りました。荒川放水路ができて洪水がなくなり、とてもありがたいと思っています。

- ・他者と話し合うことで自分の考えがまとまり、自分の生活・地域につながる考えが見られた。

【児童の記述】（単元を通して）

青山さん、そして、立ち退いた人、仕事を手伝った人のおかげで今水害がなくなっています。20年間かけて作ったおかげです。私は20年かけてでも、青山さんは岩淵水門を作りたかったんだと思います。それほど人々を助けたかったんだと思います。洪水から人々を守るために作ったこの川を、大切にしていきたいと思いました。

- ・自己評価指標で肯定的な反応が増えた。相手を意識してうまく伝えられた4以上の児童は、第11時が終わった段階で88%であり、当初と比べ、30ポイント増加した。

◆課題◆

- ・同じテーマを調べたグループの構成人数は12人、話し合いは4人、6人とした。話し合いは活発に行われる姿が見られたが、調べ活動と話し合い活動等、活動によって適した人数を考える必要がある。
- ・根拠資料が多いと、テーマに沿った話し合いが難しいので、資料に関しては決められた時間の中で話し合いに当てる分量を考慮するとともに、活用する資料を段階的に増やす必要がある。